

公開保育による施設関係者評価

日 時 令和4年1月12日（水） 午前9時30分～午前12時

会 場 認定こども園みのり

内 容 各園の職員に対して公開保育を行い、当園の評価をして頂く。
案内形式ではなく、それぞれ分かれてクラスに入り、保育観察を2時間程度して頂く。
施設関係者に評価を行って頂き、評価をまとめて頂く

ねらい 教育・保育要領のこども園における教育及び保育の基本にもあるように、「安心感と信頼感をもっていろいろな活動に取り組む体験」が環境を通して行えているかをねらいとし、年齢に応じた実践を主眼とおく。

評価者 あさひこども園（副園長、主幹保育教諭、保育教諭1名）
志津保育園（園長、乳児専門リーダー、幼児教室専門リーダー）
星の子保育園（園長、主幹保育教諭）
事務局（みのり職員1名）

評 価 認定子ども園みのりは定員200有余を数え、地域における保育の中心としての役割を担っている。田畑に囲まれた園庭は広々としており、多数の園児が、それぞれの遊びに打ち込める環境が整っている。また、園舎においても、静と動と、それぞれの遊びの環境が確保されている。

事実、公開保育当日は雨天であったが、園舎内だけでも、例えばホールでは運動教具を用いた体育遊びが行われており、賑やかな園児の姿があった。あるいは、集中して取り組む遊びでは、木工や刺繍、ままごと等の遊びに特化された専用の部屋が設けられ、少人数での遊びも充実していた。これらにより、園児の数からすると、静かであるといってもよい環境であって、大規模施設でありながら、家庭的な育ちが保障されている。

園舎内の随所に、育ちの質を意識した取り組みが見られ、飾りつけひとつにしても、季節の素材を用いた手製のものが主となり、温かい雰囲気を出している。子どもそれぞれにとっては、遊びたいものが揃えられ、それら遊びを回遊しながら、時に安心してできる場所で落ち着き、ぼんやりとしているうちにまた遊びたい気持ちが沸き上がって、皆の輪のなかに戻っていく行動が見られた。動と静、活動と活動の猶予、そのサイクルが滑らかに回っているため、子どもが焦れて騒ぎ出すよう

なことも少ないのであろうと思われる。

なお、同じ敷地内に高齢者のためのケア施設も併設されている。世代間の断絶が大きな社会的課題となっている昨今、子どもと高齢者の交流には大きな社会的意義がある。地域福祉を担う存在としてこれからも期待される場所が大である。

総 評 今年度はコロナ過の中、保育者の表情が見えにくい、食事は黙食の徹底、家庭保育協力要請で園に来ることができないなど、子ども達にとっては今までにない辛い経験をしているその中で、少しでも子ども達一人ひとりが安心して生活できる、ワクワクする遊びが一人ひとり見つけることができるよう物的環境を整え、それをどのように子どもに与え、導くかが保育者の質、すなわち人的環境に繋がっていく。保育の質としては、クラスごとの差があるようにも少し感じたので、園内の公開保育を来年度も行い、お互い切磋琢磨しながら保育を高めていければと考える。また、高齢者との交流についてはコロナ過の中でなかなかできないが、コロナが収束したら再開していきたい。

結 果 当園のホームページに掲載する